

清流 ニュ ー ズ

発行所
八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話(042)646-0287(代)
FAX(042)644-1164
<http://seiryuji.jp.org/>

令和元年度総祈願
本年度教化誓願達成
創建七十周年記念事業御有志奉納成就之御願
教区再編成御奉公成就
教務員増加・役中後継者養成

有清寺に於て、開導聖人の御正當に、宗門総回向が併修されます。
宗門総回向料は、本宗の三大奉納金の一つで、重要な意味をもっております。

六月二日(日) 元八王子教区
三日(月) 八王子西教区
四日(火) 八王子東教区
五日(水) 八王子南教区
六日(木) 八王子北教区

将引し合つて参詣に精進いたしましょう。

清流寺創建七十周年記念事業御有志

(その十三)

二四〇名 四一五口
(教区順、敬称略、順不同)

京王教区一部 一口

当山創建七十周年記念事業御有志は、五〇〇口を目標にして御有志の勧募が続いておりますが、現在、四一五口までまいりましたが、やゝ停滞ぎみですから、もう一押し尽力がのぞまれます。

六月廿四日
日序上人祥月ご法要
午前十時羽村別院にて
来る廿四日は、先住権大僧正日序上人の祥月ご命日です。例年の通り、羽村別院のご墓所に於て、ご祥月法要が、門祖聖人御逮夜総講に併わせて奉修されます。

当日は、清流バスの運行もされることになりましたので参詣希望者は、事務所に申し込んで下さい。

七月十四日(土)
本山宥清寺にて
宗門総回向奉修
来る七月十四日(日) 本山

歡尊会 無事奉修之御礼

令和元年初のお会式

晴天のお計らいをいたぐく



奉修導師・長谷川清泊講師の力強いご唱導

薫風のそよぐ中、羽村別院に於て令和元年初のお会式が奉修された。絶好のお会式日和りのお計らいの下、歡尊会が、当山副住職・長谷川清泊講師が奉修導師をお勤めになられた。



同帰亭要語録

事相

二種の行相

法華經の修行は二種あつて、一つは有相行、もう一つは無相行と申します。無相行というのは、「三昧に入る」即ち「座禅」のような形の修行法で、外からみたら何をしているのかサッパリわからないので「無相」です。修行している本人は觀念觀法を凝らしてサトリを開くべく修行しているわけです。

「有相」というのは「口唱している姿」ですから、誰かみても、「あゝお題目を唱えているナ」と分るのであります。この、形にあらわしてする修行こそ末法の機根にふさわしいので、これを「機法相当」と申すのであります。これを妙樂大師は「菩薩法華ヲ學ブニ二種ノ行ヲ具ス。一ハ有相行。二ハ無相行。無相安樂行ハ甚深妙禪

定。六情根ヲ觀察ス。有相安樂行ハ散心ニ法華ヲ誦シ、三昧ニ入ラス。坐立行、一心ニ法華ノ文字ヲ念ズ。(輔行二)と示されてあります。

有相は事相行

「たゞ法華の文字を唱え念ずる」というのが、口唱という修行です。これが「機法相当」で、門祖日隆聖人は「事行トハ口唱ナリ」と示されてあります。つまり口唱信行は有相行であり、事相行ということになるのです。本門は事相宗なり事相とは目に見えたるを事相とぞいふ

と御教歌下されたのはこの事であります。心でたゞふかく思っているだけでは無相であり、その思いが、形にあらわれるのが事相ということであります。

日々の行動も事相

修行が事相であれば、日常の言語動作、所作ふるまいも亦事相にあらわれなければ意味がありません。修行が実つて信心が深くなれば、仏法上も世法の上でも菩薩的な行動が出てくるのが当然で「菩薩ハ慈悲ヲ以テ基トシ利他ヲ以テ先トス(日本真言宗事)」と御妙判下されてあるような精神

が行動化されるのであります。

不輕精神のあらわれ

「一代の肝心ハ法華經、法華經の修行の肝心は不輕品にて候なり。不輕菩薩の人を敬ひしはいかなる事ぞ。教主釈尊の出世の本懷は人の振舞にて候けるぞ。」(崇峻天皇事「一」)

と仰せられてあり、いくら信心が強いと云つても、自己本位であつたり欲が深かつたり、ひとに対して不親切であれば、それは信心が強いとは云えないのであります。凡夫は元來、三毒強盛が性分であるのですが、お題目を唱える修行の功德によつて

他に対して、優しく、反省心も強く少欲知足に心が變つてくるのが、「不輕精神のあらわれ」ということになり、御信心している甲斐があつたという事になるのであります。

凡夫の心が菩薩のような心に変つてくれば、「心ガ外ニアラワレル」という法則で、たいへん、「いゝ人」になつてくるので、凡夫の心をソノママにしておいて御利益は頂けません。心の改良が出来て、行いがかわつて来て、これこそ御利益が自然にあらわれるということを知らねばなりません。